

令和5年度 学校評価書(共通) 前期

校名

宇和島市立北灘小学校

1 自己評価書

教育目標「北灘を愛し、心豊かに、生き生きと活動する児童の育成」 スローガン「輝く瞳 北灘のために！」					
基本方針 北灘地区の文化と伝統、地域人材を生かし、ふるさとに愛着を持ち、心豊かに生き生きと活動する児童の育成を目指して、保護者や地域と共に歩む学校づくりを推進する。					
本年度重点目標 ①複雑で予測困難な社会の変化に対応するための豊かな知識・技能を習得させ、想像力を高める教育の推進する。 ②多様な人との協力的な活動を通して、個のよさを実感させ、それぞれの可能性を伸ばす。 ③児童が健康で安全に過ごし、心身ともに安心して学校生活を送ることができる環境を整える。					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
確かな学力の定着と向上	① 全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	自校のねらいに沿って、各調査を分析し、成果と課題を把握し、具体的な対策を講じた。	・分析資料の作成	A	B
			・具体的な対策の実施	B	
	② 授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。 ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。 一人1台端末(iPad)及びEILS(えひめICT学習支援システム)を積極的に活用し、個に応じた新しい学びのあり方の推進に努めた。	・教師アンケート	B	B
			・保護者アンケート	B	
			・児童生徒アンケート	A	B
			・教師アンケート	B	
	③ 家庭学習の充実	家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート	B	B
			・保護者アンケート	B	
			・児童生徒アンケート	B	
	④ 読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート	A	B
			・保護者アンケート	C	
			・児童生徒アンケート	C	
	⑤ ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	A	
			・児童生徒アンケート	A	
<p>(成果と課題) ○ カリキュラムの見直しが見直しが児童の深い学びにつながった。 ○ 学校と地域と一緒に活動する機会を設定したことは、児童が地域を大切に思う気持ちの情勢につながった。 △ 週に1冊以上、図書を借りる児童が増えたが、主体的な読書活動には十分にはつながっておらず、家庭での読書をあまり好まない実態がある。 △ 家庭学習の充実を図るための取組をしているが、十分な効果を得られていない。</p> <p>(改善策等) ・読み聞かせや本を紹介し合う活動を今後も継続して行い、児童が本に親しむ機会を確保していく。 ・授業で取り組んだ課題や小テスト等での間違えをそのままにせず、必ず家庭学習ノートで取り組むように声掛けし、家庭学習のサイクル化を図る。 ・今後も授業の焦点化を心掛け、めあてから振り返りまでを意識した学習を行っていく。</p>					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
生徒指導の充実	① 規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート	B	A
			・保護者アンケート	A	
			・児童生徒アンケート	A	
	② 児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。 不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。 いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート	B	A
			・保護者アンケート	A	
			・児童生徒アンケート	A	A
			・教師アンケート	A	
	③ 基本的な生活習慣の徹底	基本的な生活習慣の確立に向けて、家庭との連携・協力の下、学校全体で組織的に取り組んだ。	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	A	
			・児童生徒アンケート	A	
	④ 自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。 自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート	B	B
			・児童アンケート	C	
			・教師アンケート	B	B
	・児童アンケート	A			
	<p>(成果と課題) ○ 教育相談の充実を図りながら積極的な生徒指導を展開したことでいじめや不登校等の未然防止に取り組むことができた。 △ 児童自身が自らの行いや考えをやや否定的に捉えており、自己肯定感が低い傾向がある。 △ 児童理解がまだ十分ではなく、児童一人一人に応じた指導・声掛けが難しい。</p> <p>(改善策等) ・児童が互いの長所を伝え合う時間を設定することで、児童の自己有用感を高めるとともに、周囲の言動・頑張りに対しても意識させていく。 ・今年度実施し始めた職期での児童情報交換を継続させるとともに、児童理解のための時間を職員研修等で積極的に設定していく。</p>				

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	① ワーク・ライフ・バランス	仕事のやりがいを重視しつつ、時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指して、 <u>教職員の意識改革</u> に努めた。	・教師アンケート	B	B
			・「出勤・退庁調査」の分析と活用	B	
	② 働きやすい環境づくり	新型コロナウイルス感染症5類感染症への移行後の業務改善に向けて、教育活動の回復や精選に慣例にとらわれることなく取り組んだ。 休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	A	A
			・教師アンケート	A	A
③ 他の教職員のサポート体制の充実	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A	
<p>(成果と課題)</p> <p>○ 高学年の体育科(水泳)を午後を設定し、放課後水泳練習と続けて行うようにしたことは、時間外勤務の時間減少に有効であった。</p> <p>○ 教職員は互いに相談し、助け合いながら、様々な校務に取り組んでいる。風通しのよい職場だと感じている。</p> <p>△ 仕事の効率化を図ろうと努力しているが、仕事量が減っているわけではないので難しさを感じる。</p> <p>(改善策等)</p> <p>・ 共助の視点で個人業務時間を確保し、仕事の効率を上げる。</p> <p>・ 業務改善につながる意見があれば、学期末評価を待つことなく、思い付いたそのときに教頭へ伝えていく。</p>					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	① 学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。 学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	B	B
			・教師アンケート	A	
			・保護者アンケート	A	
	② 情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	A	
			・地域アンケート	A	
③ 来校・相談体制	保護者や地域の方々が来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	B	A	
		・保護者アンケート	A		
		・地域アンケート	A		
<p>(成果と課題)</p> <p>○ 毎日欠かさずことなくホームページを更新したり、定期的に学校・学年だよりを発行するなど、児童の活動の様子や頑張りを積極的に発信した。</p> <p>○ 地域学校協働活動推進員の協力を得ながら、「北灘夏野菜カレーパーティー」を開催し、学校運営協議会や公民館長など地域の方々との交流することができた。</p> <p>(改善策等)</p> <p>・ 引き続き学校運営協議会の議事録を作成・配付し、全教職員がどのような議題について話し合われているかが分かるようにする。</p> <p>・ 教育推進員に講義いただく予定があるので(8月4日)、その内容をもとに実践していく。</p>					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満